

**2024年3月期第2四半期決算**  
**オンライン・カンファレンスにおける主な質疑応答**  
2023年11月10日、東京

**Q1：上期の国内売上高は好調に推移したが、下期以降も継続する見通しか。2024年6月に予定されている診療報酬改定を受けて、医療機関の設備投資意欲が鈍化する可能性はあるか。**

A1：2024年施行予定の「医師の働き方改革」に向けたタスクシフトや業務の効率化のための設備投資として、ITシステム商談が好調に推移している。高度急性期病院では、集中治療体制の強化が進められており、ハイエンドモニタ等の需要は堅調に推移している。2024年6月の診療報酬改定に向けて、医療のDX化等も議論されていることから、ITシステム商談は底堅く推移すると見ている。病院の統廃合など地域医療構想に沿った病床再編が進む中で、ケアサイクルに沿った製品やサービスの提案強化に努め、確実に商談を獲得したい。

**Q2：米国では医療機関の経営悪化により、生体情報モニタの大口商談が期ずれたのか。米州、欧州、アジア州他における医療機関の設備投資意欲について教えてほしい。**

A2：米国では、看護師不足やインフレに伴い医療機関の経営悪化が顕在化しており、受注から納品・設置までのサイクルが伸びているほか、商談の決定プロセスも一時的に伸びている。生体情報モニタの大口商談の期ずれは、当社個別の要因（顧客要求に基づくソフトウェアのカスタマイズに時間を要している）によるものである。一方で、当社の大規模ネットワークに対応したモニタリングソリューションは、医療従事者の業務効率改善に寄与することから、大手病院グループにおいてニーズが高い。欧州では、一部の国において、政府予算の縮小に伴う医療機関の設備投資抑制の動きが続いている。中南米、東南アジアでは、医療機器の需要は底堅く推移している。中東情勢については、現時点で大きな影響は出ていない。

**Q3：日本、米国における生体情報モニタの見通しを教えてほしい。センサ類など消耗品が好調に推移しているが、ベッドサイドモニタ等の医療機器の需要をどう見ているか。**

A3：国内では、送信機やミドル・ローエンドのベッドサイドモニタは減収となった一方、手術室・ICU向けのハイエンドのベッドサイドモニタは増収だった。コロナ関連需要の反動は想定よりも小さく、今後も更新需要は継続すると見ている。米国では、商談の決定プロセスが一時的に伸びているが、来期に向けて受注は回復すると見ている。国内、海外ともに、コロナ禍における生体情報モニタ等の設置ベース拡大に伴い、消耗品・サービス事業は引き続き堅調に推移すると見ている。

**Q4：中国では、上期にICU拡充に伴う需要の増加があったが、通期および下期の中国売上高の見通しについて、反腐敗運動の影響を教えてほしい。**

A4：中国では、今夏以降、反腐敗運動の影響により市場が停滞しており、1年程度影響が続くと見ている。このため、アジア州他の実質売上高を期初予想から16億円引き下げた。下期の中国売上高は二桁減収を見込んでいる。

**Q5：商品群別の粗利率について、コロナ前の水準と比較して、どの商品群の粗利率が改善しているか。**

A5：国内では、自社品販売に注力し現地仕入品の抑制に努めていることから、現地仕入品が多く含まれる  
その他商品群の粗利率がコロナ前と比較して改善している。自社品は概ね粗利率6割以上を維持し  
て販売する方針に変更はない。

**Q6：部材価格の高騰に伴う原価上昇影響を引き上げた背景を教えてください。本影響は来期も続くか。**

A6：部材価格の高騰に伴う原価上昇影響は、期初予想の12億円から23億円に引き上げた。11億円の引  
上げのうち、生産調整に伴う加工費の活動単価上昇と、部材メーカーからの価格上げが、概ね半々の  
影響である。部材価格の引上げには、上期に一時的に高い価格で市場調達した部材の影響も含まれ  
る。部品供給のひっ迫状況は落ち着いてきていることから、来期は当期ほどの部材価格の高騰に伴う  
原価上昇はないと見ている。

**Q7：世界的に医療従事者が不足する中、医療従事者の業務効率改善、業務負荷軽減に資する当社製品・  
サービスについて教えてください。**

A7：医療機関の経営悪化が顕在化する中、病院経営のサポートを目的としたデジタルヘルスソリューショ  
ン（DHS）やサブスクリプション等のビジネスモデルの検討を進めている。米国では、生体情報モニ  
タのアラームレポートなど業務効率改善に向けたソリューションを提供してきた。今後は、昨年買収  
したイタリアのソフトウェアチーム社のソフトウェアを活用し、高度なアラームマネジメントアプ  
リケーションの提供を目指している。また、医療機関のサイバーセキュリティ対策を支援するサービ  
ス等の提供により、顧客価値提案を推進し、成長を継続していきたい。新製品の在宅睡眠記録装置や  
術中神経モニタリングの需要拡大にも期待している。

**Q8：マスク型人工呼吸器が好調に推移しているが、中長期的な見通しを教えてください。**

A8：2022年に米国市場に投入したマスク型人工呼吸器は需要が増加傾向にある。中位機種モデルの人工  
呼吸器も当下期に米国で発売予定であり、人工呼吸器事業の中長期的な成長および新規顧客ベース  
の拡大によるクロスセリングを期待している。

**Q9：サステナビリティ推進のマテリアリティ・KPIに、esCCO、導出18誘導心電図、iNIBP搭載機種販売  
台数を掲げており、2年間の進捗率も良いが、実際の商談獲得事例を教えてください。**

A9：当社独自のパラメータ測定技術であるesCCO（estimated Continuous Cardiac Output：非侵襲連続  
推定心拍出量）を搭載したベッドサイドモニタの販売台数は増加している。医療従事者の業務効率改  
善や患者アウトカムの向上につながることから、特に中南米で普及が進んでいる。

以 上

#### ＜ご留意事項

※本資料は、投資家の皆様へのご参考として掲載しています。説明会でお話したこと全てをそのまま書き起  
したのではなく、当社の判断で簡潔にまとめたものであることをご了承ください。

※本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的で  
あると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。